

料理

夏休み親子クッキング教室

とき 8月10日(水)午前10時～午後1時
ところ 生涯学習センター5階料理講習室
内容 講義と調理実習(麦ごはん・鮭のホイル蒸し・夏野菜みそ汁など)※テーマは夏野菜を使った料理
対象 市内在住の小学生とその保護者
定員・費用 10組程度※応募多数時抽選・1人400円
持ち物 エプロン、ハンドタオル、三角巾、ふきん
申込み・問合せ 7月18日(月・祝)【必着】までに、備え付けの申し込み用紙または、はがきに住所、親子の氏名、子どもの学年と性別、電話番号、「夏休み親子クッキング教室」と記入し生涯学習課(〒411-0035大宮町1-8-38、☎983-0881)へ。



料理

夏休み子ども料理教室

とき 8月3日(水)▶1回目:午前9時30分～正午▶2回目:午後1時30分～4時
ところ 錦田公民館1階調理室
内容・費用 みしまコロッケ作り・500円
対象・定員 市内在住の小学生・各回20人※応募多数時抽選
持ち物 エプロン、三角巾(帽子、バンダナも可)、上履き、ふきん
申込み・問合せ 7月13日(水)までに、直接または電話で錦田公民館(☎973-0308)へ。



学ぼう

子ども遺伝学講座「やさしいアリ教室
～アリの不思議・アリの知恵～」

とき 7月26日(水)午前9時30分～11時40分
ところ 国立遺伝学研究所※無料
内容 身近なアリについての話と観察
講師 今井弘民さん(元国立遺伝学研究所助教授)
対象 市内在住の小学3～6年生
定員 40人※応募多数時抽選
申込み・問合せ 7月20日(水)までに、電話または電子メールで、住所、氏名(ふりがな)、学年、電話番号を政策企画課(☎983-2616、seisaku@city.mishima.shizuoka.jp)へ。

自然体験

森の小さなダムづくり体験

とき 7月23日(土)午前9時～正午(雨天中止)
ところ 箱根の里駐車場集合(作業場所は箱根の里周

QRコード記載記事は、電子申請可。市ホームページから「電子申請」と検索してください。

辺の森林)※無料

内容 ①地下水のしくみについて説明②間伐作業・チェーンソー体験③間伐材を使ったダムづくり作業
対象 小学生以上の人(小学3年生以下は保護者同伴)
定員 20人程度
持ち物 長袖・長ズボン、底の厚い運動靴、飲み物
申込み・問合せ 7月13日(水)までに水と緑の課(☎983-2643)へ。

自然観察

山田川水生生物観察会

とき 7月24日(日)午前9時～正午(小雨決行)
ところ 山田川河崎橋上流周辺
対象・定員 市内在住の小学生以上(小学3年生以下は保護者同伴)・25人※応募多数時抽選
持ち物 筆記用具、タオル、飲み物、着替え(あれば虫眼鏡、網目の細かいタモ、小バケツなど)
服装 半ズボン、帽子、ぬれてもいい靴
申込み・問合せ 7月15日(金)までに、電話、FAX、または電子メールで環境政策課(☎983-2647、FAX976-8728、kankyou@city.mishima.shizuoka.jp)へ。

自然観察

親子水生生物観察会(源兵衛川)

とき 7月28日(木)午後1時30分～3時(雨天時は8月5日(金)に延期)
ところ 南田町広場集合※無料
内容 源兵衛川で水生生物の採集、観察など
対象・定員 市内在住の小学生(小学3年生以下は保護者同伴)・40組※応募多数時抽選
持ち物 筆記用具、タオル、軍手、飲み物、着替え
服装 半ズボン、ぬれてもいい靴
申込み・問合せ 7月25日(月)までに、環境政策課(☎983-2646)へ。

自然観察

夏梅木川で水生生物を探してみよう

とき 8月6日(土)午前9時30分～正午(小雨決行、荒天時は8月20日(土)に延期)
ところ 錦田公民館集合※無料
内容 夏梅木川で水生生物の採集など
対象・定員 市内在住の小学生(小学3年生以下は保護者同伴)・20人※応募多数時抽選
持ち物 筆記用具、川に入れる服装、タオル
申込み・問合せ 7月20日(水)までに、直接または電話で錦田公民館(☎973-0308)へ。



源頼朝と三島 (頼朝木像)

府を開くことに成功します。毎年盛大に催される三島夏まつり「頼朝公旗揚げ行列」はこの故事によるものです。

頼朝は三嶋大社に感謝し、所領を寄進、社域を広げ神池を整備します。また下田街道を大社から南へ真つすぐに整備しました。大社の門前には大きな市がたち、この後、長く繁栄することとなります。

この百日祈願にかかわる伝説がほかにも残されています。途中、仮眠をとったのが、間眠神社(東本町二丁目)にあった松の下の庵と伝わっています。この庵は後に周福寺(青木)として整備されました。そのころ頼朝を狙っていたのが大庭景親です。景親の妻が、頼朝暗殺を夫に思いとどまらせようと暗闇で待っていたところ、景親は誤って妻を切ってしまう。この妻を弔うために建てられたとされているのが写真①の妻塚

▲写真①『妻塚』(東本町一丁目)



(東本町一丁目)です。また、中地区の伝説には、頼朝が大社に参拝した折、女が後をつけてきて何度も声をかけるので、頼朝がうるさいと女の片腕を刀で切ったところ、女は地蔵であったというものがありません。このときから地蔵の手がなくなり、「手無し地蔵」と呼ばれるようになったそうです。

写真②は宗徳院(松本)に伝来する頼朝の木像です。いつ誰が制作し奉納したのかは不明です。ほかにも、この寺には頼朝の馬の爪跡が残るといふ石橋が近年までありました。

このような頼朝伝説は伊豆一円に残り、長く人々が頼朝を慕い続けていたことがわかります。

企画展「源頼朝と伊豆」では、伊豆に伝わる頼朝の伝説や史跡を九月三日(木・祝)まで広く紹介します。



▲写真②『源頼朝木像』(松本・宗徳院)

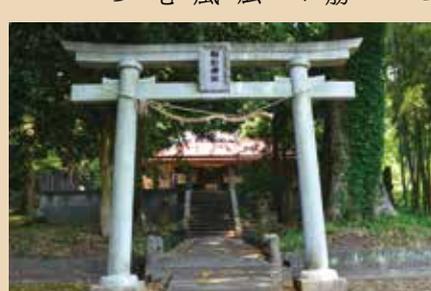


三島の村名⑦
沢地(さわじ)
(北上地区)
—駒形神社—
(こまがたじんじや)

沢地は箱根西麓から流れる沢地川沿いに開かれた集落です。古くから箱根神社と繋がりが深く、戦国時代には箱根権現(江戸時代までの名称)の神領の記録が残っています。江戸時代まで年貢を納め続けていました。明治以降は毎年各農家から米を集め、御供米として奉納していました。毎年八月に行われる箱根神社の祭り、芦ノ湖でお櫃を沈める神事には沢地の米が使用されたといわれます。

沢地の産土神は駒形神社です。箱根の駒形神社を勧請したものと伝えられ、古老の話では毎夜馬の神様である「コマガタさん」が村の中を一軒一軒見回ってくださるといいます。コマガタさんが落ちるので縦井戸は設けず、横井戸を掘ったそうです。

沢地川から幾筋もの用水を引き、豊かな水田が広がっていた農村風景は、近年の住宅開発で変貌しつつあります。



▲駒形神社

また、伊豆国一ノ宮である三嶋大社をことに大切にし、源氏再興のため百日祈願に通ったといわれています。治承四年(一一八〇)三嶋大社の祭礼日(八月十七日)に合わせて葦山で旗揚げした頼朝は、見事、源氏再興を果たしました。この後平氏を滅ぼし、鎌倉幕